

こぞうさんの おきよう

新美 南吉
にいみ なんきち

やまでらの おしろうさんが びょうきになりま
したので、かわりに こぞうさんが だんかへ おき
ようを よみに いきました。
おきようを わすれないように、こぞうさんは み
ちみち よんで いきました。

キミヨ
ムリヨ
ジュノ
ライ

すると なたねばたけの なかに うさぎが いて、
「こぼうず あおぼうず。」
と よびました。

「なんだい。」

「あそんで おいきよ。」

そこで、こぞうさんは うさぎと あそびました。
しばらく すると、

「やつ しまった。おきようを わすれちゃった。」
と こぞうさんが さげびました。

すると うさぎは、

「そんなら おきようの かわりに、

むこうの ほそみち
ぼたんが さいた

と おうたいよ。」

と おしえました。

こぞうさんは だんかへ いきました。そして、う
さぎの おしえて くれたように、ほとけさまの ま
えで、

むこうの ほそみち

ぼたんが さいた

さいた さいた

ぼたんが さいた

と かわいい こえで うたいました。

きいて いた ひとびとは びつくり して 目を

ぱちくり させました。それから くすくす わらい

だしました。こんな かわいい おきょうは きいた

ことが ありません。

そこで、ごほうじが すむと、だんかの ごしゅじ
んは すました かおで、

「はい、ごくろうさま。」

と、おまんじゅうを こぞうさんに あげました。

「ごちそうさま。」

と こぞうさんは おまんじゅうを いただいて た
もとに いれました。

こぞうさんは、かえりに その おまんじゅうを、
さっきの うさぎに わけてやる ことを わすれま
せんでした。

「こぞうさんの おきょう」

※『新装版 新美南吉童話集1
ごん狐』（2012年12月1日、大
日本図書株式会社）の「こぞう
さんの おきょう」をもとに一
部、漢字表示とルビを編集しま
した。